

健 対 協

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会 鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 令和5年9月2日（土）午後2時30分～午後3時45分
- 場 所 鳥取県立倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町
- 出席者 25人
廣岡部会長、山口委員長
大田・岡田・尾崎・工藤・來間・小寺・小林・鈴木・永美・福田・宮脇・
山根・若原各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：山崎課長、上田課長補佐、岡係長
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中主任、廣瀬主事
〈オブザーバー〉
鳥取市保健所：田中主任保健師
米子市福祉保健部健康対策課：宇佐見係長、吉川主任

【概要】

・令和4年度乳がん検診マンモグラフィ読影実績報告については、医療機関検診の要精検率は東部4.06%、中部5.59%、西部6.93%で、地区で格差がある。いずれも、国が示す要精検率の許容値11.0%以下は下回っているため、精度は保たれていると考えられる。

- ・令和5年度に第3次鳥取県がん対策推進計画期間が終了することから、今年度に次期計画の内容を検討していく。そのため次期計画の項目案が提示された。
- ・令和4年度がん検診受診状況（速報値）が示された。令和4年度乳がん検診受診者数は16,698人で受診率15.3%（前年16.2%）、令和3年度と比べ受診者は933人減少である。

る。引き続き精査分析していく。

- ・国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、新たなプロセス指標の基準値等が示された。乳がんのプロセス指標新基準値では、要精検率は6.8%以下となる。現在は地区により差もあるが7%程度のため少し厳しくなる。

基準値の年齢上限を「上限69歳」、「上限74歳」のいずれで設定するかの検討の為、冬部会では両方のデータを検討する。また、受診者の対象年齢は上限なしも算定する。

挨拶（要旨）

〈廣岡部会長〉

本日は会議にご出席いただき感謝申し上げます。検診業務に関して、本日は様々な議題があるが、よろしく願います。

〈山口委員長〉

本日は暑い中ですが、会議にご出席いただき感謝申し上げます。本日は、当初あまり議題はありませんでしたが、協議事項も増えましたので活発なご意見を願います。よろしく願います。

協議事項

1. プロセス指標の基準値改定について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

がん検診の精度管理水準の更なる向上のため、「今後の我が国におけるがん検診事業評価のあり方報告書」（平成20年3月）が見直され、がん検診のあり方に関する検討会において、「がん検診事業のあり方について」がとりまとめられたことから、令和5年6月23日付けで、国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、新たなプロセス指標の基準値等が示された。この改定をふまえた今後の対応等につ

いて協議した。

・プロセス指標基準値改定の概要

プロセス指標新基準値では、評価指標に、CIN3以上発見率（子宮頸がんのみ）、非初回受診者の2年連続受診者割合（乳がん、子宮頸がんのみ）、感度、特異度（要精検率と関連する指標として）が追加となる。

乳がんのプロセス指標新基準値では、要精検率は6.8%以下（許容値は11.0%以下）となる。現在は地区により差もあるが7%程度の為少し厳しくなる。

今後の対応（案）及び課題等

- ・令和5年度の各部会（冬部会）で、令和4年度のがん検診等実施等調査実績を報告する際には、経年での数値の推移や比較分析等する必要があるため、従来の指標の基準値等で昨年度と同様に報告する。
- ・あわせて別途、令和3年度と令和4年度の累計の要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度を算定して、新基準値と比較して結果を報告する。
- ・基準値の年齢上限を「上限69歳」、「上限74歳」のいずれで設定するかの検討の為、冬部会では両方のデータを検討する。また、受診者の対象年齢はこれまで同様上限なしも算定してみる。

2. その他

①乳がん検診マンモグラフィ読影委員の異動について

今年度、乳がん検診マンモグラフィ読影委員の異動があった場合、基本的な流れとしては、各地区読影委員長から読影委員会（地区医師会事務局）に報告をいただき、地区医師会より健対協に委員の追加等の連絡をいただく。読影委員の異動については、今後、年度末に健対協から主要な病院の読影委員へ確認をとることとなった。

②乳房エックス線画像の撮影方法について

委員より、乳がんの住民検診において、トモシンセーシス撮影（3D撮影）を行っている施設がある。3D写真の読影結果を検診結果へ反映させると、がん発見率が高くなる場合があるなど、正確な統計がとれなくなるため、市町村が行う検診については、国の指針に従い、2Dで撮影した写真の読影結果を反映させることとしている。現在、がん検診無料クーポン券の利用や、受診者へのトモシンセーシス撮影の説明がなされていない事例がある。協議の結果、トモシンセーシス撮影は住民検診では行わないことが確認された。なお、健常者の被ばく等の懸念もあることから、健対協から一次検診医療機関に対して、トモシンセーシス撮影を行っているかアンケートを行うこととなった。その結果は冬部会において報告する。

③紹介状の取扱いについて

検診結果の受診者への返送に関して、1か月分をまとめて返す市町村があり、受診者への結果の返送は、2～3週以内には届くようにすべきとの意見があった。東部地区と西部地区は医療機関から直接受診者へ結果を通知しており、中部地区は医療機関から自治体に送り、各自治体から受診者へ結果を通知している。健対協から中部の市町へ、結果を早く受診者へ通知するよう連絡することとなった。

④リードスペースメーカー装着者の対応について：宮脇委員

現行の「鳥取県乳がん検診実施に係る手引き」においては、現在妊娠中又は妊娠の可能性のある者、豊胸術等や心臓ペースメーカーを装着している者については、原則として、検診の対象者から除くものとなっている。そのため、今年度保健事業団にてリードスペースメーカー装着者の検診をお断りした事例があった。については今後、リードスペースメーカー装着者の検診を行って良い

か検討がなされ、検診を行っても良いこととなった。また併せて、手引きの改正を行うため、冬部会にて改正案を提示することとなった。

報告事項

1. 令和4年度乳がん検診マンモグラフィ読影委員会開催状況について

(1) 令和4年度各地区読影会実施は以下のとおりである。

東部（山口委員長）－鳥取県保健事業団を会場にして、週2回読影会を開催している。

①読影会開催回数201回、②読影総数7,767件（うち集団検診分3,707件）、医療機関検診分4,060件、③医療機関検診分のうち比較読影3,184件（78.4%）

中部（大田委員）－中部読影会場にて、週1回読影を行っている。

①読影会開催回数38回、②読影総数1,019件、③医療機関検診分のうち比較読影656件（64.38%）

西部（鈴木委員）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行っている。

①読影会開催回数57回、②読影総数1,486件、③医療機関検診分のうち比較読影1,242件（83.58%）

[読影結果]

	CAT1	CAT2	CAT3	CAT4	CAT5	判定不能	要再検
東部	94.63%	1.31%	3.69%	0.32%	0.05%		
中部	88.71%	5.69%	5.00%	0.39%	0.20%		
西部	82.77%	10.09%	6.39%	0.40%	0.13%	0.13%	0.07%

(2) 保健事業団調べ（宮脇委員）

各地区の受診者総数は6,910名で前年度より236名減少、初回受診者は125名増加となった。要精検率は全体が5.63%、西部地区で9.39%と高く東部地区で4.77%と低めになっている。

2. 乳がん検診従事者講習会について

今年度の従事者講習会として、本委員会終了後に従来通りの集合方式にて、従事者講習会及び症

例検討会が開催されることの報告があった。講師は鳥取大学医学部附属病院 胸部外科診療科群講師 若原 誠先生である。

3. 第4次鳥取県がん対策推進計画の策定について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室
課長補佐

平成30年を始期とする現在の「第3次鳥取県がん対策推進計画（期間6年間）」は、令和5年度に計画期間が終了することから、今年度に次期計画の内容を検討しており、「鳥取県がん対策推進県民会議」を中心に計画内容の検討を行い、6月29日に開催された「第1回鳥取県がん対策推進県民会議」に提出された第4次鳥取県がん対策推進

計画項目（案）が本委員会においても提示された。

4. その他

①令和4年度がん検診受診状況（速報値）：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室
課長補佐

各市町村より報告いただいた速報値を報告があった。

令和4年度乳がん検診受診者数は16,698人で受診率15.3%（前年16.2%）、令和3年度と比べ受診者は933人減少である。鳥取市の受診者数は、前年度より増えているが、米子市、境港市は減少している。冬部会に向けて引き続き精査分析していく。

乳がん検診従事者講習会

日 時 令和5年9月2日（土）

午後4時～午後5時30分

会 場 鳥取県立倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町

出席者 21名（医師：18名、保健師等：3名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県立厚生病院外科医長 大田里香子先生の座長により、鳥取大学医学部附属病院胸部外科診療科群講師 若原 誠先生による「乳癌診療の流れと周術期治療について」の講演があった。

第30回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会会長 廣岡保明先生の司会により3症例を報告していただき、検討を行った。

1) 東部症例（1例）：鳥取市赤十字病院

山口 由美先生

2) 中部症例（1例）：鳥取県立厚生病院

大田里香子先生

3) 西部症例（1例）：鳥取大学医学部附属病院

田中 裕子先生